



No.348

# 自分に「試練」を課す

この二学期から、小6の国語の授業を担当する機会に恵まれた。この授業で、私は説明的文章を扱っているのだが、先日、個人的に興味のわく題材に出会った。日高敏隆という方の『昆虫という世界』の一部だ。(Amazonで調べてみたら、ますます興味があわいたので購入しようと思っている)要約すると以下のとおりである。

日本などの季節変化のはげしい温帯やもつときびしい寒帯にすむ虫たちは、冬が近づくと休眠に入る。まさに体の外も中も武装してきびしい冬に耐える。そんな寒い環境にさらされた休眠ではなく、もつと暖かいところで休眠させたらどうなるか。すぐに休眠からさめて春を迎えたチョウの動きをするのではないか。このように期待したたくさんの研究者が、休眠に入った虫たちを暖かいところにおくという実験を行ってきた。結果はどうだったか。春になって寒さに耐えていた虫たちが休眠からさめ、変身を終えてチョウとして舞いだしているのに、暖かいところで休眠していた虫たちは、さめることなく休眠を続け、なんとそのまま死んでしまうのだという。また、眠りからさめて変身をとげた虫がいても非常にひよわな状態である、ということだった。寒い環境で休眠させるのはかわいそうだと思う研究者もいただろう。



どうやら虫たちは、きびしい冬を経験しないと休眠からさめないらしい。虫の成長には冬の寒さが不可欠なのだ。文章中の表現を借りると、「むしろ彼らはきびしい冬を要求しているのだ」ということだ。逆にいうと、暖かい環境、つまり楽な状況で過ごしても成長しないということを示している。虫たちは自ら自分たちに試練を課しているのだ。

虫に限らず人間にも同じことが言えそうだ。だらけた環境でなんとなく過ごしても成長はあり得ない。いつか必ずしつぱ返しをくらう。そういうふうにできているのだ、と思う。

だから、一年間に4〜5回、定期的にテストが行われる環境、あるいは、中学卒業時と高校卒業時に入試が行われる環境は、試練があらかじめプログラムミングされている状況ということになるが、これは実はありがたいことなのだと思う。ところが、このようにプログラムされていても、なかなか動きだせない。定期テストや入試などのありがたい試練に、君たちの心がついていっていないようだ。定期テストや入試などを自分の成長を促す良い機会と捉えられれば、目標を立て毎日の勉強計画も立てられるようになると思う。

創学舎でも授業をしつかり顔を上げて聞くといったことや小テストや宿題などの様々な試練をみんなに課している。しかし、



この試練もどう捉えるかでやり方に大きな違いが生じるだろう。ただ乗り越えればいいやという試練回避の考えでいい加減にやると、その場を乗り越えたとしても全く頭に残っていない、点数が取れないということが発生する。せつかく時間をつくって塾まで来ているのだから、できるだけ多くのことを身に

付けて帰ってほしい。私も知識の提供だけに終わらずに、わかりやすい説明能力やみんなに伝わる表現力を毎回向上させていきたい。ともに試練に真正面からぶつかり成長できたらと思う。(本多)

## 30人31脚

私は小学生のとき貴重な経験をさせていただきました。5・6年生の時の担任の先生があるテレビ番組に出演したことで推薦をもらい、2年連続で30人31脚の予選大会に出場しました。近所の大会ではなく、代々木公園まで行き本格的な予選大会に出場しました。

テレビで観たことがある方もいるかもしれませんが、この競技は一チーム30人以上で足を結び、50m走のタイムを競うものです。途中で足を結んでいるヒモが取れてしまったり、転んでしまったりしたら、その場所からもう一度スタートをやり直します。その間タイムは止まることはありません。つまり、一度ミスをしたら良いタイムは残らないので、予選突破をするには、50mの間にチームで息をあわせ、最高のパフォーマンスをしなければなりません。

私のクラスは人数がちやうど30人でした。つまり、一人でも欠けたら出場ができない状態です。クラス全員で走るの、走るのが得意、苦手、身長差、歩幅などいろいろ問題があり作戦を考えることが必要でした。

その中で、クラスには体の大きいある男の子がいました。(以下A君) A君は走ることがとても苦手で、50m走も12秒台。全員で走る練習でも、A君の部分から列が乱れてしまうことが多くあり、走る

たびに雰囲気も悪くなってしまいました。クラスのチームワークはそれほど良いわけではなかったので、A君をフォローするための作戦もまとまるのに時間がかかりました。ある日から、その子をフォローするために全員で朝早くに登校し、練習もたくさんしたことを覚えていきます。

予選は神奈川県と千葉県の一県で争われ、二回50mを走ってタイムを競います。本番前の練習では、一度も50mをきれいに走れず、引率に来ていただいた保護者の方も含めて全員の気持ちが沈んでしまっていました。

本番では、多くの学校が転倒してしまい、良いタイムを残せず悔しい思いをしている中、私のクラスは、二回目失敗せずに12秒台前半で走り抜きました。しばらく1位のままの予選を見守っていましたが、やはり全国大会へ行く常連の小学校に抜かれてしまいました。二回目に走るときは、全員の視線はゴールへ、「イチ・ニツ」という掛け声も揃い、無事にゴールできました。今までで一番チームワークが良くなり、きれいに走れたと感じ、記録は11秒99とベストの記録でした。

なによりも、A君が自分ひとりで走るよりも、速いタイムで走れたことに感動しました。この感動はいまでもはつきりと覚えています。普通に見たら速くないタイムで、予選突破できなくても、全員の力で努力し、ベストタイムを更新したといういい形で終わったことが一番良かったです。

2年連続でこのような大会に参加できたこと、また参加を勧めてくれた先生に感謝しています。

(浅岡)



# チキンハートの 愛しき生徒達②

●「やっているのに伸びない。」「がんばっているのにテストの点がいつも悪い。」「こんな声が多い。今年の高3生も大変だ。で、よくよく聞いてみると次のようなことが分かった。一学期に書いたことと重複するところもあるが、そこも含めて読んでほしい。

●実は、高3生で模擬試験をしっかりと受けられている人は半分もいない。中3のキミも同じ。次にあげたのは全て実話。各自、チェックを入れながらよんでみよう。

□ ①「早く読もうとしたんですが、時間が足りなくて。最後の長文は10分しかなくて全部カンでやりました。」

□ ②「急ごう急ごうとすると余計に分からなくなつて……。」

□ ③「ゆっくりやりすぎて、全部は終わらなかった。」

□ ④「二教科目を失敗し、それがずっと気になつて、二教科目は集中できません。全部ダメでした。」

□ ⑤「得意な科目だと思っていたのに、全然解けなくて……。一ヶ月ぐらい、やっていたいなかった。」「

□ ⑥「昼食をとったあと、眠くて、テスト中に寝てしまいました。」

□ ⑦「前日から緊張して、眠れません。テストのときは眠くて……。」

□ ⑧「苦手な所が出ると、頭の中が真っ白になってしまう。」



□ ⑨「朝、お母さんとケンカして、ずっとそれが気になって……。」

□ ⑩「テスト中に、トイレに行きたくなつて……がまんしたけど、解けなくて……。」

□ ⑪「傾向が変わっていた。あんな問題やつたことなかったから……。」

□ ⑫「となりの人がスラスラ解いていて、それが気になった。自分はダメだと思つて……。」

□ ⑬「となりの人の鉛筆の音が気になって気になった。もうイヤ！」

□ ⑭「休み時間に、大きな声で答えを言い合っている人達がいて……。私とかなり違っていた。きつとダメ。」

□ ⑮「私は心配で仕方ないのに……。楽しそうに大声で話している人の声が頭にガンガン響く。」

□ ⑯「テストになるとダメなんです。どうしたらいいのか分からなくて……。落ち着こうと思つてもできない。シャーペンで自分の足をずっとさしています。」

□ ⑰「きらいな人がいて……。テストのとき、その人の顔をみてしまうと、いやなことばかり考えてしまう。」

●「こんなことがひとつでもあれば、もうその日は失敗。悲惨な結果になる。でも、残念ながら、そういう人は、同じことをくり返す。何度も泣いて、でもくり返す。本当に哀れな、かわいそうな、愚かな、救いようのない、どうしようもない奴だ。もっとも、自分もそういう人間の一人だったが……。」

●私は、大学に入るのに二浪した。二日酔いで受験のぞんで失敗したし、昼に弁当を4つ食べて、午後の試験で寝てしまったこともあった。模試や入試

の前の日は、なかなか眠れなかった。それでも、朝4時ごろ目が覚める。そして、そこから苦しい時間が始まる。「今日は受けに行きたくない。」「でも、受けに行かなかったら……。」「もうどうでもいい。」「いや、まずい……。」「こんなことをくり返しながら、出発する時間になる。歯を食いしばって会場に向かう。当然、ベストの状態で試験にのぞめる訳はない。それでも何とかなつたのは、ある程度の勉強はやってきたからだが……。」

●ところで高3生は、一年間でかなりの個人面談をしている。中には10回を超える人もいる。そうすると出てくる、出てくる。模試だけに限っても、先に述べたような状況(上記はその一部である)。ただ、私は自分が相当に苦しんだし、失敗も多かったのだし、生徒から出てくる話ではほぼ理解できる。また、多少の対応策も知っているのので、お役に立てる部分もある。ということだ、これから先は、対応策に入る。次のことをしっかりと読んでほしい。



① 本心に成功したいなら、テストのときの状態を全て書き出せ。細かく。

② 書き出したら何度も読め。同じことを自分が何回もくり返していることに気づくだろう。

③ 読み込んだら、こういうことを繰り返して「いいこと」があったか考えよう。そう、一回もなし。

④ 次にこれからのテストでどうするか(どうしたいか)考えよう。

●実は、④の「考える」が難しい。勿論、父母や仲間や教師は、きつとキミのために色々アドバイスをしてくれるはず。「プラス思考で」「前向きに」「そんなの気にしないほうがいいよ」「時間配分に気をつけよう」「きみならきつと大丈夫」……。

いつてくれることはありがたい。でも、キミにとつては何の解決にもならないこと、それをキミは分かっているはずだ。では、どうするか?大丈夫、解決策はある。これから17個の一つ一つについて、対処の仕方をあげていく。但し、その前に一つだけ肝に命じてほしいことがある。

●きちんと勉強をして、しっかりとした学力を身につけておかないと、何をやっても結果は悪い。

●高3でこんな人がいる。とにかく時間だけにとっている。本人はがんばっているつもり。でも私からみたら、その勉強のほとんどがただの作業。具体的にいうと、過去問を解いたあとの答え合わせに20〜30分。「半分しかとれません。」「これでは伸びない。80分で解いたら、答え合わせと解説に倍の160分かかるのが普通。英語であれば、訳は一つずつ英文と照らし合わせて何故その訳になるか理解。解説は全て理解。不明の所は調べる。間違えた原因を書く。気づいたことを書く。面倒であろう。でも、これしかないのだ。中3生も同じ。解いて答え合わせはただの作業だからね。解いたあと、本当の勉強が始まるのだ。

(以下次号) (小林)



### ▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。  
▶在籍していた教室までご連絡ください。